

大衆文化は多くの悪魔を作り上げる。映画加盟会社は特に悪魔に焦点を当てている。80年代、90年代と思うのだが、the Nightmare on Elm Street (エルム通りの悪夢) という映画があり、開幕最初のシーンから見るのが余りにも怖かったのを憶えている。

Dan Brown's angels and demons (ダン・ブラウンの天使と悪魔) の本や、Exorcistのような映画など広範囲に渡っている。悪魔に着想しているのは、悪魔が私たちを怖がらせ、驚かせる能力を持っていること、それは今でも存在している。

本日の福音書 (マルコ1:21-28) 読むと、イエスは悪霊あくりょうを恐れられてはいなかった。むしろ悪霊がイエスを恐れていた。

その場にいた人々、律法学者や教えを聞くために出席している人々は、イエスを権威ある者と認識した。しかし権威ある者にとって新しい教えは余り都合がよくなかったのだが、道理にかなっていた。この頃の律法学者は、聖書とユダヤ人の予言者について教授し、そして解釈するために雇われていた。イエスもそこで同じことをされた。

悪霊に取り付かれた男が「我々を滅ぼしに来たのか」と叫んだ時、律法学者も同じようなことを思っていたであろう。この頃の律法学者やパリサイ人は、ローマ帝国支配のもとで許可される範囲内で勤めようとしていたのは事実であった。従って彼らの教えは、人々を自由にするためのものではなく、抑圧するものであった。そして人々が確実に税金を納め、秩序を保つために、人々を奴隷化してしまった。その結果、寺院はいつものように機能することができた。

イエスはこれとは逆の立場であった。
男を叫ばせた悪霊は、イエスを「神の聖者」として認めた第一番であった。

ユダヤ人の「神の聖者」という新約聖書の解釈は、列王記下にある予言者エリアに与えられたタイトルに例えられる。この頃、「神の聖者」という表現は、不浄あるいは悪魔の霊とは正反対のものであった。この節を読んだキリスト者は、悪魔がイエスを神の子として認めていたとみなすであろう。しかし認められるだけは不十分であったが故、イエスは悪魔を黙らせ、この男から出て行くように命じられた。

悪魔は、イエスを不浄とは正反対の方であり、神の純粋な方であると認めていた。それは悪魔にとって脅威であった。

イエスの時代、人が何かを名付けた時、名前を与えられた人よりも、与えた人により権限があった。創世記では、地上の創造物を名付けたアダムのように、あるいは赤ん坊が生まれた時、赤ん坊を名付けた人々ように、名付けた者がより権限を持っていた。両親は自分たちが好むどんな名前でも子供に付ける権限がある。子供が成長した時のみ、人々は名前変更を求めることができる。

悪魔はなぜ沈黙を守って狡猾な企て^{くわだ}に進まなかったのか？ おそらくは恐れだ。もし語り続けることが許されたなら、その状況で悪魔は権威ある者とされ、人々の前でイエスが誰であるかと名指したであろう。それは人々に恐怖と混乱を引き起こすのだ。

あなたが、ローマと綱で繋がってる律法学者の一人であると想像してみよう。ローマは神の人々を踏み続け虐げ続けている。そして神がイエスの体を借りて、突然、あなたの前に現れ、教えられる。彼らは何をしたのだろうか？ 私たちの誰が何をしたのだろうか？ 彼らは結論を避けるため、その場でイエスを殺すことができたかもしれない。にもかかわらず、イエスは全くの神であられたが、全くの人間でもあられた。あなたや私のように殺されたかもしれない。それは後に十字架上で起きた。

イエスが悪魔に男から出て行くように命じられた時、「神の国は近づいた。神の敵（悪魔）は打ち負かされる」と明確に述べられた。結論として、神はこの世における悪魔の支配を終わらせ、新しい教えを述べられた。癒し、慈しみ、あわれみによって印された教えだ。

21世紀の私たちは何であるのか？ イエスの時代には、人々はあらゆることに悪魔が存在していると理解していた。悪魔はだだの不浄な霊ではなかった。てんかん持ちの少年を覚えているだろうか？ 父親は少年をイエスの元に連れて行き、弟子たちは少年を倒させる悪魔を追い出すことができなかつたと述べた。イエスは少年を癒された。イエスは弟子たちに、この状況は祈りによってのみ結果が出る述べられた。現代の私たちは、てんかんは神経に関連していると理解している。それは脳内の神経化学物質と電気刺激が影響を及ぼし、罹った人に痙攣を起こさせる。この事実は、すべての悪魔論は空想であり、科学と医学によって説明がなされる。

にもかかわらず、悪魔はいろいろな形で現代にも存在している。私たちにもっとも影響を与えているのは、ぞーとするような映画ではない。もし天使の存在を信じているなら、悪魔の存在をある程度認めなければならない。

私が言及している悪魔とは、社会や国として私たちの個々に所有しているものなのだ。悪い企みで私たちを破壊しようとしている。私たちはどのように祈ればよいのか？

イエスが弟子たちを指示されたように、ある悪魔は祈りによってのみ出て行く。追い出さなければならない悪魔をかかえている。どのように？ 悪魔を名指すことから始めよう。

私たちが何かを名付ける時、私たちはそれに対して権限を持っている。なぜならその存在を認めているからだ。私が説教の準備のために今週の日課を読んだのだが、もっとも危険なことは不信心であると思う。すべての私たちは時折、不信心の芽生えと葛藤する。私たちは神の信仰を失うことがある。それは忍び込んでくる感覚である。

「何もすることができない、何も変えることができない、絶望である」と告げる人がいる。この大感染の折、恐れが生み出す絶望のような意識を私たちは感じている。最近のニュースで、裕福な人々がワクチン接種の最前列に割り込んだのを知った。

このような悪魔たちは間違いなく追い出さなければならない。なぜなら恐れが存在する時、彼らは忍びよる仲間を伴ってくるからだ。それは人種差別、偏見、同性愛嫌悪、不寛容、貧欲、戦争、テロ、利己主義、これらすべては私たちが自分本位になるように仕向け、他の人からの権利を取り上げ、他の人々を抑圧する。従って彼らの代償を払うことになる。

現代の悪魔は人々を倒れさせたり、口に泡を吹かさせたりはしない。彼らは忍び込むために、さらに巧妙であり邪悪である。しかし同じように危険である。なぜなら、すべての悪魔は、私たちがイエスの道からそらせてしまう。

イエスに従う者として、日常生活や社会に存在する悪魔を名指さなければ、彼らは権威を奪い取り、私たちが名指して私たちが誰であるべきかを告げるであろう。私が以前に名指したすべての人種差別、不寛容、貧欲に対して、私たちが大きな声を上げなければ、悪魔たちはさらに強靱になるであろう。これらに対して立ち上がるには勇気がいる。それは私たちの評判を悪くさせ、家族のメンバー間からも違和感を生み出す。しかし、これがイエスの道なのだ。ここの会衆はこのことを誰よりもよく知っている。人種差別の不当性に対して立ち上がったことは、カナダの歴史に記述されている。今日、私たち自身を吟味してみて、私たちに潜んでいるどんな悪魔を取り除かなければならないのか？

これは重い課題のように響く。しかし幸運なことに、私たちは一人で歩んでいない。イエスが私たちを導いて下さっており、互いに頼ることができる。私たちはイエスの体で団結している。勇気が欠けているなら、祈りに向かおう。心を容易にするのではなく、イエスが示された勇気と進み続ける力を願ってみよう。それは十字架の道へと導かれるかもしれないが、その反対側には命がある。神と共に過ごせる豊かな命がある。アーメン。

(文責長澤猛)